

(3) 日野中学校 (抜粋)

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
学力向上 (進路保障)	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに授業参観しコメントを交換し合い授業改善に向けての研究を進めた。また、協議内容をその後の公開授業や相互評価に生かした。</li> <li>生徒からは、9項目中6項目において、90%を超える肯定的評価を得た。「自らの学び」の確認、「学ぶ楽しさ」につなげる指導はほぼ達成できた。</li> <li>保護者アンケート、教職員自己評価でも80%以上の肯定的評価を得た。</li> </ul>	A
	基礎基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望者別ならびに習熟度別に補充学習を行い、基礎基本の定着を図った。</li> <li>学習規律としてのチャイム席、授業開始の挨拶は定着した。</li> </ul>	B
	家庭学習の定着と習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>「復習や予習をしている」と答えた生徒は62%から65%へと伸びた。</li> </ul>	B
	ICT教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末機を使って生徒自身が調べたり、写真や画像を撮って活用したりするなど、教科学習にも取り入れるよう工夫した。</li> <li>「目的によって必要な情報を集めたり、集めた材料を読み取ったり、整理して文章を構成したりする」力を図る問題の正答率が高い。</li> </ul>	B
心力向上	思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は全校遠足や体育祭、小中高合同ボランティア活動などにおいて、仲間と協力しながら自主的に取り組んだ。</li> <li>調査によると、学級は安心できる場所となっている。</li> <li>生徒会活動全体への意見を吸い上げる話し合い活動(学級生徒会)に取り組んだ。</li> <li>1学期、不安を感じている生徒が何人かあったが、丁寧聞き取り、指導をしていく中で多くが解消された。</li> </ul>	B
	地域との交流を通し、郷土愛の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭新聞作りで、生徒が地域を調べ考えていく活動を行い、作成した新聞を郡中文祭、町公民館まつり、生きいきひの、ふれあいまつり、郵便局、図書館で掲示し、高評価を得た。</li> <li>町民体育祭、駅伝、鵜の池マラソンなど、町行事への参加を奨励した。</li> </ul>	A
	凡事徹底の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>靴揃え、授業・集会での指名の返事、授業開始・終了時・職員室入退室時のあいさつはほぼ定着した。</li> <li>P T A 広報紙にあいさつ運動での保護者の感想を掲載し、啓発した。</li> </ul>	B
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は授業にねらいをもって参加し、1時間の内容は理解できている。</li> <li>特別支援学級生徒に対しては、保護者や小中教員で現状や課題を確認し、支援の方向性を話し合った。</li> </ul>	B

評価項目	具体項目	目的の達成状況	自己評価
体力向上	基本的な生活習慣「早寝・早起き・朝ごはん」の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物洗口 100%、朝食摂取率はほぼ 100% である。</li> <li>・SNS をめぐる問題が発生したが、いずれも生徒・保護者が積極的に考え、学校とともに解決しようと努力した。</li> <li>・保健だよりと教育相談だよりを発行した。保健体育委員会だよりや校内掲示は生徒とともに取り組み、健康や食に対しての啓発を図った。</li> </ul>	A
	基礎体力の向上、持久力・忍耐力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストでは、2年生女子を除いて体力合計点が平均以上だった。</li> <li>・校内マラソン大会で、スポーツ指導員や地域ボランティアの方にペースメーカーを依頼した結果、29人が自己記録を更新した。</li> <li>・西部地区駅伝では、男子は2分39秒、女子は7秒短縮した。</li> </ul>	A
	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトテニス部男女団体個人、陸上男子棒高跳びでは中国大会に出場した。</li> <li>・ノー部活動デーは、年9回実施した。</li> </ul>	B
保小中連携 (日野町子ども 15年プラン)	小中交流授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の研究授業を一人平均3回程度参観し、研究会にも参加できた。</li> <li>・数学(算数)、英語、体育で中学校教員が小学校に出かけ、小学校教員とTT(チームティーチング)を組んだ。</li> <li>・公開授業や研究授業を実施する際は小学校・高校から多くの先生を招き、事後研まで白熱した議論ができた。</li> <li>・上記の取り組みにより、既習学習を意識した授業を構築できた。</li> </ul>	A
	小学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほこすぎ教室」では、「『安心』で『幸せ』な学校生活送るために」というテーマで、活発に話し合うことができた。</li> <li>・「部活動体験」や「合同陸上練習会」でも2年生がリードし活動できた。</li> <li>・「小中高合同ボランティア活動」では、中学生としての役割を果たせた。</li> </ul>	A
	9年間を見通した授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫カリキュラムを活用した外国語活動を小学校で試みた。</li> <li>・「教科でつながる学力向上事業」(算数・数学)研究会を実施した。</li> <li>・小中連絡会を年2回実施した。</li> <li>・特別支援学級児童については授業参観を経て、体験入学を2回実施した。他の行事などを含めると、年5回以上は交流活動を行った。</li> <li>・教員間の連絡会はその都度行った。</li> </ul>	B